

はじめに

マンボウという魚を知っていますか？ マンボウはスーパーなどでよく見かけるアジやサバなど、魚の後ろ半分を断ち切ったようなユニークな形をしています。今では水族館で見られるようになったので、マンボウを知っている方は多いでしょう。この本を手にとってくださった方もきっと、マンボウを知っている方だと思えます。

それでは、マンボウについてどんなことを知っていますか？ どんなことを知りたいですか？ そんなことを思いながら、私がこの本を書き始めたのは、二〇一五年八月末、広島大学で博士号取得の審査を終え、その結果を待っているときでした。

マンボウは、私たち人間の体をはるかに超えるほど巨大になり、水面でぷかぷか浮いているかと思えば、深海へともぐったりもして、とても好奇心をくすぐられる魚です。私はそんなマンボウが子どもの頃から大好きでした。「好きこそ物の上手なれ」とはよく言ったもので、マンボウ好きをこじらせた私は、気がつけば三〇歳で本物の「マンボウ博士」になっていました。

今回縁あって、中高生以上が対象の一般向けのマンボウ本を書くことになった私は、インターネットで参考になりそうなマンボウ本を探してみました。しかし、江戸時代の本、海外の本、創作ものを除くと、日本でいくら探してもマンボウ本は見つかりません。私はマンボウ類に関する資料を一三〇〇個以上集めてきましたが、マグロやウナギの本はあるのに、マンボウだけを取り扱った本は、やはり見たことがありません。

そうになると、この本がマンボウという生物を総合的に取り扱った、(少なくとも二一世紀では)日本で初めての一般向けの本になると思います。

マンボウはインターネット上でもたびたび話題に上がる人気の高い魚です。しかし、マンボウは巨体になるため研究が難しく、その生態はいまだ多くの謎なぞに包まれています。私はその謎を一つでも多く解明するために、特定の分野にとらわれず、形態、分類、生態、民俗など幅広い視点からマンボウを自由に研究してきました。そう、私のマンボウ研究は、子どもの頃に夏休みの宿題として出された「自由研究」の延長線上にあるようなものです。

ここではその自由研究の結果として、マンボウの体の構造、新たに発見されたマンボウの間、新しい研究方法によってくつがえされていく生態、人と関わってきた歴史、インターネット上で増殖ふよする都市伝説などについて、雑学的に、私の成功談や失敗談も交えて発表していきます。

たいと思います。

また、博士になるための道のりや、マンボウを使った自由研究のやり方についても簡単にお話しします。

さらに、よく「変わり者」と言われる、文理系男子を目指す私の感性を活かして(?)、各頂の最後に、その項の内容を短くまとめた「マンボウ川柳(マンボウ以外の場合もあり)」を作ってみましたので、こちらもお楽しみいただければうれしい限りです。

なお、「マンボウ」という名前は、「マンボウ *Mola* sp. B」という魚の種(＝日本の水族館で見られる種)の名前」を指す場合と、「マンボウの仲間(マンボウ属魚類)の総称」を指す場合があり、通常は混同して使われています。そこで本書では、種の名前と総称を区別するために、明確に種の名前を指す場合のみ「マンボウ」と表記し、それ以外の「」のないマンボウはマンボウ属の総称としました。

謎に包まれたマンボウの世界へ、ようこそ！ それでは、私の自由研究を発表します――。



マンボウ、と私